皆様お久しぶりです。はじめましての方もおられるでしょうか？メルマガの記事を書くのは 2013 年に「若手」として近況を報告して以来かと存じます。もはや若手とは言い難い平成 19 年卒の、現在富山大学に勤務しております水上達治と申します。思いもよらない形で北陸に戻ることになり、18 歳で群馬大学に入学してから 18 年の時を経て故郷の石川県暮らしとなりました。そして私のお金で実家を建てました。当地の放射線治療の充実や理解は群馬と比較するとまだまだですが、齋藤淳一先生の元で少しずつでも確立されていけばと思います。

さて割と趣味に生きている私（しかし走るのは 42km どころか 4km も無理でしょう…）、どれかを掘り下げるのとも迷ったのですが、何か一つくらい琴線に触れるものがあればよいかなと思いましたので少しずつ色々記してみたいと思います。

＜楽器の話＞

ご存知の方もおられると思いますが楽器を演奏します。学生の頃は Flow Orchestra（and Chorus）に進化前の Musica Nova 室内合奏団とその分家だった Fore-Bridge Orchestra に所属し、同期の安藤先生、牛島先生、尾池先生、そして前教授の中野隆史先生とのご縁もそのあたりから始まりました。元々トランペットですが大学入学後ハープを始め、学生時代にアイリッシュハープ、入局後グランドハープを購入し、だんだん増えて現在大小合わせて 7 台所有しています。今ではハープを演奏する機会を頂くことも多く、コロナ前には Flow Orchestra や全学のオーケストラにも呼んでもらいました。熊澤先生の入局のきっかけにもちょっとはなったんじゃないかなとか思ってます。ほかに演奏技術は非常に危ういのですがホルンやフルート等も所有していて吹くことがあります。

趣味ではありますが放射線腫瘍学会にはオーケストラがあり、他大学の先生方との交流を持つよい機会となっております。なお現在の指揮者は岩永先生、推薦したのはこの私です。団員もまだまだ募集中です。

学会に関わる音楽活動で大きな思い出は教室が主催した第 54 回癌治療学会学術集会の催しとして学会参加者からメンバーを募ってオーケストラを組織したことで、閉会式で 70 人におよぶ大編成での演奏を行いました。アンコールでは大会長をお勤めになられた中野先生にもタクトを握って頂き、団員も驚く見事な指揮を振って頂きました。このオーケストラでコンサートミストレスの大役をお勤め頂いたのがご自身も癌患者であった東京大学の前田恵理子先生で、「がん治療に携わる医療者でつくるオーケストラをまとめていたのは癌患者であった」という象徴的な企画になったのではないかと思います。前田先生は小児循環器の画像診断で世界を牽引する方でしたが、大変残念なことに昨年ご逝去されました。改めて心よりお悔やみ申し上げます。

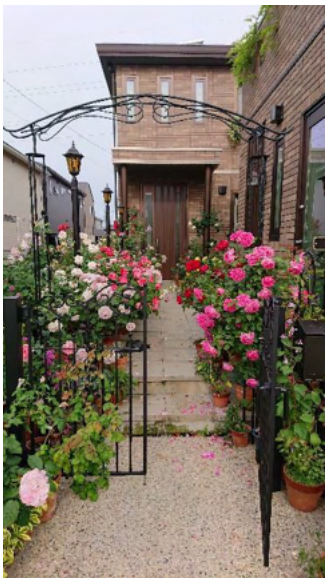
また数回ですがベッドサイドや外来など、受け持った患者さんの傍で演奏したことがありました。そんな中で（音楽療法とはちょっと違う）療法音楽＝ハープセラピーという活動に出会い、参加したセミナーで講師をお勤めであった療法音楽の先生が所属する団体を総括されているのがなんと同門の大先輩である早川和重先生であることを知り、現在そちら（音楽療法振興協会）にも所属しております。この先何か活動ができればと思います。

＜植物の話＞

以前掲載された堀込先生の多肉植物の話が割と衝撃で、広島の学会でちゃんとご挨拶してくれた堀込先生の話を遮るように食い気味に話し込んでしまいました。ごめんなさい。私は多肉が苦手で毎年この時期にだいたい根腐れさせてしまいます（でも植物自体が強いので春には復活します)。ウツボカズラは 10 年に及ぶ大株に育って前橋では花も咲かせていただのですが、北陸の寒さに負けて枯れてしまいました…現在 2 代目を生育中です。

昔から植物は好きで入院患者さんが置いていったお見舞いのコチョウランを頂いたり、祝賀会等で会場に飾られていたお花を貰えるだけ貰ってきたりしており、そして盆栽の街、大宮に近かった埼玉がんセンター勤務頃から鉢植えでも育てるようになりました。元々は購入するとしても安売りのものが多く、投げ売りされていた枯れかけのクレマチスを復活させたり、食べた後のザクロ、マンゴー、アボカド、ライチ、トマトから種をとって育ててみたり、通勤経路の道端に生えていたイチジクから枝を貰ってきて枝刺ししたりと（昨年も無事実りました)、お金のかからない園芸が中心でした。また前橋では草月流に属するいけばなを習っていたことがあり、一度重粒子センターでも活けさせて頂きました。

しかし実家に帰ってから本格的に始めてしまったのがバラ。群馬大学の前橋市、埼玉がんセンターの伊奈町、外勤先の北信病院がある中野市の花で、なんとなくご縁があります。現在 130 株くらいになって最も花の多い季節である春には数百の花が咲き乱れ、また四季咲きの種類も多く、冬以外は花が途切れることがありません。



バラ栽培で悩ましい病気の一つに癌腫病というのがあります。細菌感染から DNA の改変が起こって発症するという、それはそれで興味深いものですが、人間のものと違うとはいえ趣味でも「がん」に悩まされるのはなんだかな…という気持ちです。ほかに仕事にご縁のある植物だと理化学研究所で炭素イオン線を当てて品種改良し

た仁科乙女という四季咲きのサクラも育てています。高 LET 放射線は致死線量よりずっと少ない線量でも効率よく遺伝子変異を起こすため品種改良にも適しているそうで、機会があれば群馬でもやってみて欲しいです。

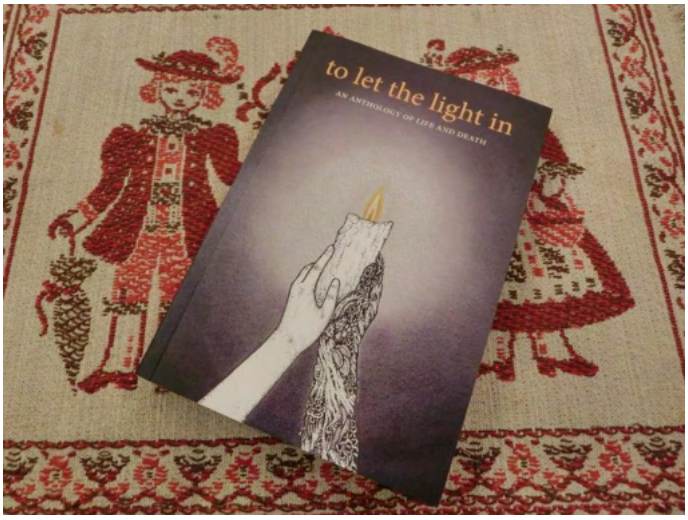
また料理に使えるハーブも挑戦しているのですが、雑草のように強いはずなのに苦戦気味です。多肉とあわせてどうして？使用頻度が高いのがシソとバジルなのですが、古い歌に合わせてタイム、ローズマリー、セージとともに購入したパセリに昨年キアゲハが卵を産み、無事育って羽化し、インナーテラスに舞い飛んでいました。

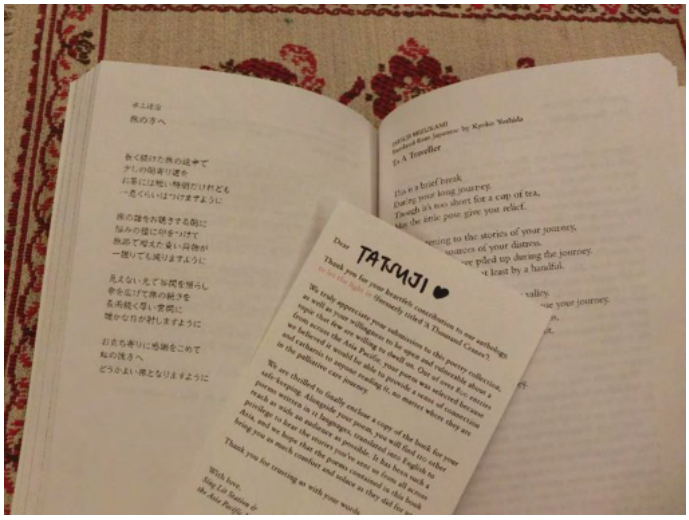
＜猫の話＞

もう時効だと思うので書きます。森先生の話によると現在の埼玉がんセンターの官舎は綺麗になって、キッチンは IH だそうですね。私がいた頃は伊奈公舎という古い建物で、入った時のお風呂はバランス釜というカチカチとノブを回して火をつけるものでした。そこに前から住んでいた猫がいました。飼っていたのではありません。あちらが先にお住まいだったのです。何匹か来ていたのですが二番目によく来ていた猫が冬になってから部屋にこもりがちになり、朝に夕に餌を要求し、そして東日本大震災の 3 日前に押し入れで子供を産みました。流石に呆然。その後は無事すくすくと成長し、結局お母さん猫と子供 3 匹を春に、一番よく来ていて子供の柄的におそらくお父さん猫（写真は宅配便を受け取っている間に楽しみにしていたクロワッサンを盗られた図）を退職時に実家に連れ帰り、もともと実家にいた猫と合わせて最大時は 7 匹となり安泰な生活を送っていました。昨年の夏にお父さん猫はついに天寿を全うしましたがお母さんと 3 兄妹は今も元気です。

＜詩が載った話＞

大変申し訳ないことに私はなかなか論文を出せていないのですが、詩は載りました。日本緩和医療学会を通じてアジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク（Asia Palliative Care Network : APHN）が詩集（広報当時は A Thousand Cranes「千羽鶴」という題で後に to let the light in に改題された）に掲載する詩を募集しているというご案内が流れ（締め切りまで 6 日！）それなら一つ、と詩ってみたものが運良く受理されました。





アジア太平洋地域から集まった 800 を超える詩のうちの 111 篇が掲載。11 の言語で書かれていて、死生感や風習の違う国々の様々な思いが描写されています。驚いたのは全部の詩に英訳がついていたこと。それぞれの言語の専門の先生が訳してくださっているのですが、詩という元の言語でもちょっと曖昧な表現のものでも綺麗な英語に出来るものなんだと感動。

内容は順当に緩和的放射線治療について詩ったものになりました。放射線治療がわかる人ならどこが何を表しているか分かるはず…学生さんはいかがでしょうか？作りながら以前担当させて頂いて、時間を共有させて頂いた多くの患者さんたちのことをしみじみと思い出しておりました。色んな方がおられ、様々な人生を見させて頂きました。

それぞれの話を掘り下げればまだまだ深く、他にも私が幕引きをしたかつて昭和キャンパスにあった裏千家茶道部時代から引き続きお世話になっている 90 代で現役の先生と茶道の話、流石にちょっとやりすぎかなと思う美術品収集の話、天然石やアクセサリーの話、珍しく体を動かすウィップクラッキングの話、飲み会で登場するタロットの話、富山大学放射線診断教授の野口京先生とまさかの同郷（しかも教授のお姉様が私の父と中学の同級生）である旧柳田村の山の話など引き出しも色々あるのですが、既に十分長いのでこのあたりにしておきます。

まとまらない話にお付き合い頂きありがとうございました。最後に先日摘んできた水仙の写真を添えて結びのご挨拶と致します。厳寒期を耐え、春の訪れと共に雪中から香り高く可憐な花を咲かせる水仙は希望の象徴であり、海外ではがん患者支援団体のキャンペーンで用いられるそうです。また我が国では二つの大震災と上皇后陛下に所縁のある花でもあり、東日本震災から 5 年目であった前述の癌治療学会オーケストラのポスターにも用いました。

では皆様、よき春をお迎え下さい。